

平成 18 年 7 月 1 日

群馬会場

於：シムックス

中斎塾準備フォーラム 第 1 回講話

本日は御多用中のところ、皆様よくお出でを戴きました。

有難うございます。

中斎塾フォーラムは、来年の 4 月 1 日より正式にスタート致します。

本日から来年 3 月末までは、準備期間でございます。

従いましてこのフォーラムは、＜中斎塾準備フォーラム＞とさせて戴きます。

先ほど猪瀬理事のご挨拶にもありましたように、本日は中斎塾フォーラムとしては、記念すべき第一歩の日となります。

私ごとですが、明年還暦を迎えます。

還暦は、社会にお返しをする年代に入ったのだと自覚しています。

お返しをする具体的な方法としては、中斎塾をスタートさせ、知足主義を世に広めようと考えています。

具体的に申しますと、判断の三原則を皆様にお伝えして、個人・家庭・地域・自分が所属する組織、ひいては国家、更には世界に関する色々な問題を判断する為の基準を身に付けて戴きたい。

その為のお話しを展開したいと考えております。

私の心の中には、木内信胤先生がおっしゃっていた「総合的直観力」を是非私も磨き、皆様にも身に付けて戴きたいという気持ちが充満しています。

そして社会に対して、＜暁鐘＞安岡正篤先生が言われていた世の中に警鐘を鳴らすようなグループでありたいと考えています。

毎回のテーマは時事問題を取り上げていきます。

本日は日銀の福井総裁の問題を取り上げます。

お配りしたレジメをご覧下さい。

判断の三原則は、＜本質・大局・歴史＞の三点から見ることでございます。

本質の面から見ると、

どのような問題ととらえるか？

問題となったきっかけは何か？

問題の状況把握と経緯について

この順序で本質を掘り下げたいと思います。

この問題は、日本人の心のあり方、行動のあり方、その転換局面と私はとらえています。
日本経済・世界経済の舵取り役としての自覚が、福井総裁は足りなかったのだらうと考えます。

我欲、拝金思想の行き詰ったものが表面化した問題であり、それが経済に対して相当な悪影響をもたらしていると考えられるべきであろうと思っています。

このきっかけは、本人が国会答弁で甘さを露呈したことにより、マスコミからのバッシングを受けたことです。

マスコミは、ここぞ！と思った時に集中砲火をあびせて来ます。

果たしてそのような形で、マスコミが情報を国民に出してよいものかどうか。

単なるバッシングであってはならないと思います。

社会の木鐸でなければならないマスコミが、このような拝金思想に毒された情報流出も、考えるべき問題であると思います。

言い方を変えますと、このきっかけは、日本のマスコミ界のレベルの低さを表している。

ひいては日本の国家・国民の低レベルを助長していくような感じがします。

状況把握と経緯について申しますと、最近読んだものは、日経・上毛・産経、週刊誌を3冊、文藝春秋・・・こういったものから福井総裁問題の情報を取りました。

テレビも垂れ流しですが、これを追っています。

そう考えると、本人が情報を小出しにし過ぎた。

自分自身が置かれている立場を甘く見過ぎた点に尽きるだらうと思います。

従いまして本質論は、日銀の総裁というポストの重さが日本の国家・国民そしてマスコミに伝わっていない。

あまりにも軽く考えすぎている。

ひいては、それぞれの人が自分自身の本質について掘り下げる環境にないのではないか、日本の国全体がそういう状況になっていると私は捉えます。

本質の捉え方は、なぜ？なぜ？なぜ？・・・と詰めていく手法が、本質を抉り出します。

その問題について、3分間その事だけを必死になって考え抜く。

その手法を皆様も身に付けて戴くと良いと考えます。

次に大局です。

大局は、

日銀の立場

日本政府の立場（政治家と官僚）

日本国民の立場（経済界と一般大衆）

第三の権力といわれるマスコミの立場

日本を取り巻く世界各国、特にアメリカの立場

・・・それぞれの立場において、この問題を考えます。

大局とは、それぞれの人の立場、それぞれの組織の立場、それぞれの国の立場・・・そのように立場を変えて、「私はその立場であればどうであろうか？」と考え方を身に付ける事が大局観としては必要です。

具体的なイメージを申し上げるとすれば、熱気球にでも乗ってどんどん上昇していく時を想像して戴くとよろしい。

熱気球に乗って大地から上空に向かって昇り始めると、最初は人の姿ははっきり大きく捉える事が出来ますが、どんどん上に上って行くと、飛行機に乗って上空から大地を見下ろすような視点に変わってきます。

上に行くほどマクロでものは捉えられるけれども、ミクロは見えなくなります。

大局観はミクロを集積したところで、突如としてマクロに切り替えていくという心理構造が必要であろうかと考えます。

大局観で福井総裁問題を見ると、辞め時をよく考えて、辞めるべくして辞めて戴く。

本人が辞めると言わない限り、なかなか辞めさせられないのがこのポストではあります、居座り続ける事の問題が、更に今後表面化するであろうと思っています。

長く居座り続ける事は良くないと考えます。

最後に歴史です。

歴史は縦軸です。

日銀としての歴史として見る

日本国の歴史として見る

外国の歴史と比較して見る

・・・こういう視点で考えるとよろしいでしょう。

今、日銀の福井総裁に関しては、私の関心を申し上げると、いつ辞めるかの一点に尽きて

います。

恥を知る人であれば、自分のやった事の情けなさも十分分かっていると思います。

しかし、よくそれなりのポストである人が間違える事は、「私が辞めてしまったら、後はどうなるのか。私がやらなければ、この問題は解決できない。最後までやらねばならない・・・」と自分自身の立場でしかものを考えず、世間から見ると居座っているとしか思えない、そのような判断に陥りがちです。

福井さんは、そこらへんを良く考えねばならないだろうと思います。

さて、中斎塾の準備フォーラムとしては、今後東京の湯島聖堂での準備フォーラムを始めるわけですが、皆様方も湯島の聖堂に一度足を運んで戴き、そちらでの仲間作りにもご尽力戴くと有難いと考えます。

そしてこの中斎塾準備フォーラムは、株式会社 中斎塾の中の重要な事業としてスタートさせたいと考えております。

株式会社 中斎塾とは、株式会社 警備科学研究所を社名変更し、スタート致しました。

財政基盤は当面、シムックスからの収入を基本として考えております。

財政基盤を確立し、発足記念パーティーを来年 3 月 18 日に東京で開催したいと考えています。

予定人数は 200 名、最低でも 100 名はお集り戴きたいと考えています。

中斎塾準備フォーラムスタートに当って、非常に意識の高揚を覚えます。

是非皆様方の御協力をお願い申し上げ、第一回の準備フォーラムの講話と致します。

有難うございました。